

令和4年度（2022年度）試験研究成果

課題番号：R4-01

課題名：山口県における新規就農者(自営就農者)の就農実態、課題の解明

研究期間：平成31～令和4年度（2018～2022年度）

研究担当：本部・経営高度化研究室

1 研究の目的

(1) 背景・目的

山口県では新規就農支援対策に注力しており、平成27年以降毎年100名以上が就農している。しかし、経営確立に苦勞しているケースもみられ、課題の解明が求められている。

(2) 到達目標

新規就農者（以下、就農者）の確保・定着支援を効果的に行うため、就農者の募集から経営確立における実態・課題を明らかにし、対策を検討する。

2 成果の概要

(1) 「就農前～就農初期段階」では、就農地域関係者の支援・協力が重要である。

- ・独立自営就農者は「農地確保」に最も苦勞している。支援機関においても農地確保は課題であり、その要因は「優良農地の情報が得られない」「地権者の理解が得られない」である。農地確保には「農地情報提供者」「地権者との仲介役」となれる就農地域関係者の存在が必要である。

- ・就農初期最大の課題は「営農技術の習得」である。就農者は、既存生産者に相談しながら技術を習得している。就農者と地域の既存生産者とが良好な人間関係を構築することが重要である。

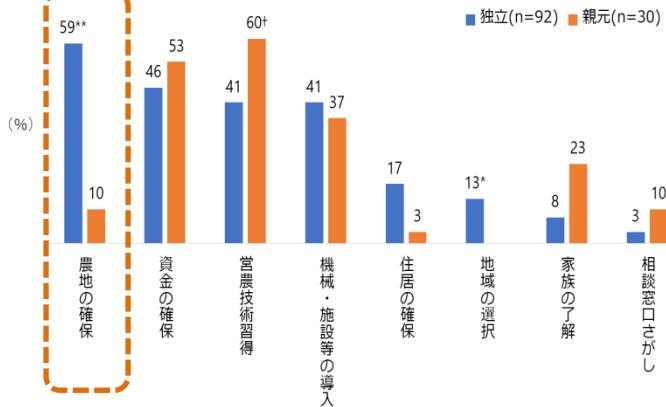
- ・経営未確立の就農者は、集落のしきたりや地域づきあいに負担を感じているため、就農者と地域住民間における相互理解の醸成も重要である。

(2) 経営発展ステージが進むにつれ、経営確立・拡大におけるボトルネックが生産技術から経営管理技術に移行する。このため、経営発展段階では経営管理技術に習得に向けた支援強化が必要である。

3 成果の活用

本成果を県内の支援機関と共有し、今後の就農支援策を検討するための資として活用する。

4 主なデータ



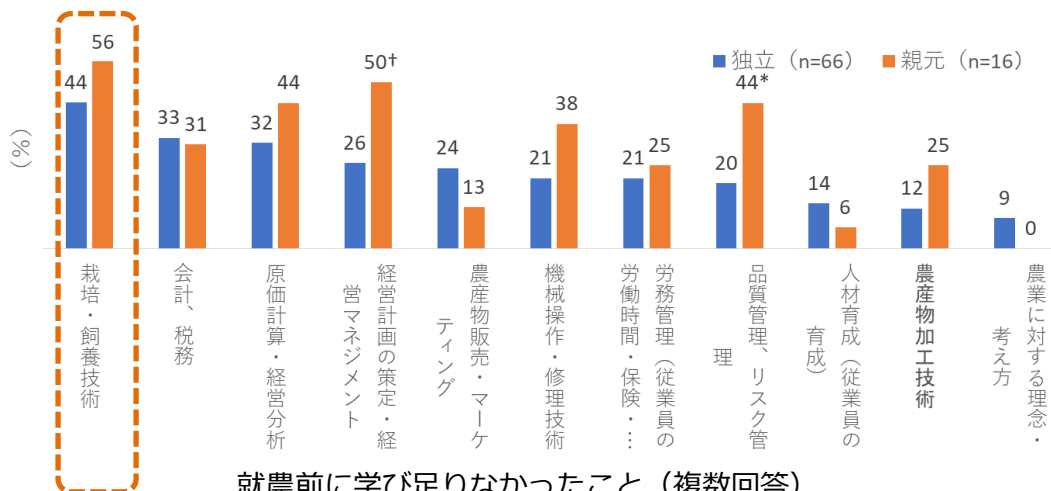
就農時に苦労したこと (3つまで)

注)**、+はカイニ乗検定により1%、10%水準で有意差あり

農地確保に関する課題と対策の整理

現状	就農支援上の課題	課題解決
優良農地は地域内で継承される	支援機関に集まる情報は誰も継承しない条件不利地	優良農地の確保には地域内の農地情報に通じている者の協力が必要
地権者は知らない人に農地を預けたくない	就農者自身での農地確保は極めて困難	就農者が農地を確保するためには地権者と話ができる仲介者の協力が必要

調査結果をもとに筆者作成



就農前に学び足りなかったこと (複数回答)

注) *、+はカイニ乗検定により5%、10%水準で有意差あり

生活面の課題

	件数			(%)			p値	判定
	全体	売上達成度70%未満	売上達成度70%以上	全体	売上達成度70%未満	売上達成度70%以上		
全体	88	36	45	100	100	100		
休暇がとれない	52	16	30	59.1	44.4	66.7	0.045	
健康不安 (労働きつい)	47	21	20	53.4	58.3	44.4	0.214	
交通、医療等不便さ	29	11	17	33.0	30.6	37.8	0.497	
就農地に友人少ない	27	13	14	30.7	36.1	31.1	0.635	
子供の教育	20	9	9	22.7	25.0	20.0	0.591	
家族の理解・協力	17	8	8	19.3	22.2	17.8	0.618	
集落のしきたり	15	11	4	17.0	30.6	8.9	0.013 *	
集落内人間関係	11	5	5	12.5	13.9	11.1	0.706	
地域づきあい多い	11	9	2	12.5	25.0	4.4	0.007 *	
親・兄弟等の介護	11	5	6	12.5	13.9	13.3	0.942	
自分が地域になじめない	4	3	1	4.5	8.3	2.2	0.207	
配偶者・子供なじめない	3	2	1	3.4	5.6	2.2	0.430	
その他	1	0	0	1.1	0.0	0.0	-	

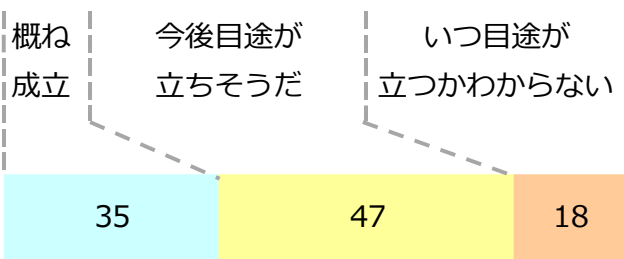
注) 「売上目標達成度」とは、生計成立状況と就農時に立てた農産物売上高目標の達成度のこと

山口県における新規就農者（自営就農）の就農実態、課題の解明

研究の背景

山口県では年 100 名以上が就農しているが、経営確立に苦労しているケースもみられる。

農業所得による生計成立の状況（%）



研究の目的・内容

新規就農者の実態・課題を解明

- 就農者へのアンケート
- 就農者への聞き取り調査
- 支援機関への聞き取り調査

効果的な新規就農支援策の検討

研究の成果

就農者の経営発展ステージにおける重要課題の推移を明らかにした。

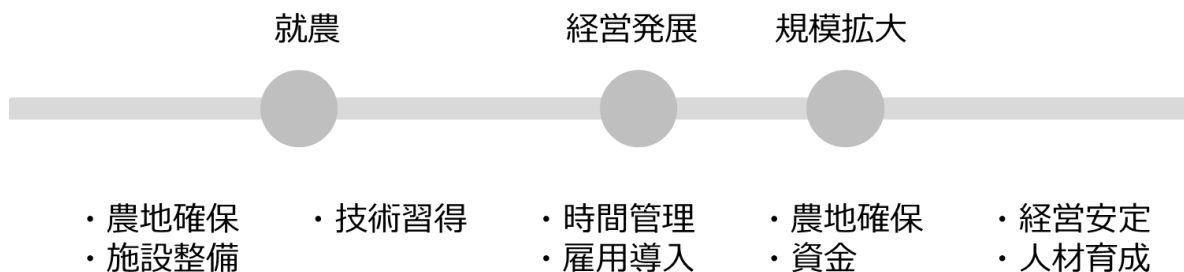
就農前～初期段階の主要課題は以下のとおり。

課題解決においては「支援機関と地域関係者との連携」が重要である。

- 独立自営就農者における就農時の最大の課題は「農地確保」。
- 就農初期段階の最大の課題は「生産技術習得」。
- 特に経営未確立の層では、「農業農村生活への対応」について負担を感じている。

経営発展ステージが進むにしたがい、経営確立・拡大におけるボトルネックが生産技術から経営管理技術に移行する。経営発展段階では経営技術習得に向けた支援が求められる。

就農者の重要課題の推移



成果の活用

本成果を県内の支援機関と共有し、今後の就農支援策を検討する。